

日本語学習を通して行う人間教育の試み

—サンパウロ日本文化センターの生徒研修—

柴原智代・末永サンドラ輝美・吉川一甲真由美エジナ

1. はじめに

ブラジルの日本語教育は、1908年に日本からの移民がブラジルに到着し、子弟のための学校を設立したのを機に始まった。1970-1980年代になると、日系人の家庭内でも日本語の使用が減り、国語教育から外国語としての日本語教育への転換期を迎えた。1990年以降は、ポップカルチャーへの関心から日本語学習を始める人が増えてきた。2012年の国際交流基金の「日本語教育機関調査」(以下、「JF 機関調査」)によると、ブラジルの日本語学習者数は19,913人で、教育段階別に見ると、初等1,974人(学習者全体の9.9%)、中等3,010人(15.1%)、高等1,488人(7.5%)、学校教育以外13,441人(67.5%)となっている。

1993年の「JF 機関調査」では、学校教育以外の学習者が17,730人(学習者全体の97%)であったことから考えると、この20年間で外国語教育としての日本語への転換が進んだことがわかる。特に、1989年にサンパウロ州、パラナ州の州立学校(中等教育段階)の言語センターで、課外活動とはいえ日本語が開講されたことは、ブラジルの社会の中で日本語が外国語としての地位を確立する大きな第一歩となった。国際交流基金サンパウロ日本文化センター(以下、FJSP)は、初中等教育段階を重点的に支援し、学習者奨励事業・教師研修・教材作成等を行っている。学習者奨励事業の一つとして、中等教育段階の生徒をFJSPがあるサンパウロ市に招聘し、3泊4日の研修(以下、生徒研修)を実施している。

現在、さまざまな国で、中等教育段階における言語学習は、ことばの習得のみならず、人間的成長を視野に入れる必要があると言われている。一方で、ブラジルの言語教育は知識獲得の傾向が強く、人間的成長を実現するためには、どのような人間を育てるかという教育の観点から再考する必要があると言える。本稿は、人間的成長すなわち人間教育を目的として研修設計を試みた2014年の生徒研修について報告するものである。

2. プログラムの見直し

2.1 1999年から2013年までの生徒研修の概要

1999年に生徒研修が始まったときは、公立校の生徒をサンパウロに招聘し交流させるのが目的だった。2010年には、サンパウロ市の南西170キロの地点にある日系人集住地域で2泊、サ

ンパウロ市で1泊するという形態になった。同年、公立校に加えて私立校にも対象を広げた。2012年には、他の南米の国の公的な中等教育機関にも参加を呼びかけた。研修の内容は、日本語を使ったゲームのほか、ヨサコイソーラン踊り・劇作り・肝試し・そうめん流し・サンパウロ観光など文化体験が多かった。

2013年までの生徒研修が文化体験中心だった背景には、ブラジルならではの事情がある。ブラジルの日本語学校は、もともと日系移民の子弟のためのいわば日本人学校だった。学芸会、運動会、林間学校、修学旅行、年中行事、スポーツ競技大会などの行事が毎月のように行われ、日系コミュニティの維持・発展に重要な役割を果たしていたのである。その反面、言語の学習にはそれほど時間が使われていなかったという指摘もある（モラレス松原2013：102）。一方、FJSPが支援する公立校で日本語を学ぶ生徒は、日本語学習の時間はあっても、日本文化を体験する機会がほとんどなかった。そのため、生徒研修が文化体験中心に立案されたと思われる。

2.2 2014年の生徒研修の方針

筆者らは、14年間ほぼ固定していた研修内容を、次の2つの観点から見直すことにした。

- (1) 日本語の使用体験と文化体験をバランスよく研修に取り入れる。
- (2) 世界各国で進行中の「グローバル社会を生きる若者を育成するための教育」の観点を研修に取り入れる。

テクノロジーの進化やグローバル化が進む中で、21世紀の人材育成には、知識だけでなくスキルや態度を含んだ人間の全体的な資質・能力が求められるようになってきている。OECD（Organization for Economic Co-operation and Development：経済協力開発機構）は、2002年に21世紀の職業人に求められるキーコンピテンスとして、①相互作用的に道具を用いる、②異質な集団で交流する、③自律的に活動する、をあげている。EU（欧州連合）では2006年に、米国では2009年に、21世紀の人材に必要な能力についての提案がそれぞれなされている。詳細については国立教育政策研究所教育課程研究センター（2013）に譲るが、いずれも21世紀のグローバル社会の一員としての自覚を持ち、その社会作りに貢献できる人を育てようという問題提起である。

外国語教育においても、社会が求める人材の育成という視点は不可欠である。しかし、これらの能力を育成するための確たる学習理論はなく、現場の実践をもとに形成すべきであると指摘されている（国立教育政策研究所教育課程研究センター2013：34）そこで、筆者らは21世紀のキーコンピテンスを勘案し、2014年の生徒研修の方針を「日本語学習を通して、自分の生活をふり返り、よりよい社会参加の指針を得る」と定め、次の3つの活動を試みることにした。

- ① 日本社会の長所と見なされていること、具体的には、時間の使い方や健康的な食生活をテーマに、自分の生活をふり返る。

- ② 日系移民をテーマに、自分のルーツを自覚し他者のルーツを尊重することを学ぶ。
- ③ 東日本大震災をテーマに、日本の災害から教訓を学び、他者の痛みを自らの痛みとする。
内容以外の変更点として、生徒研修の会場をサンパウロ市内に移したことがある。

3. 2014年の生徒研修の概要

3.1 参加資格及び募集・選考方法

生徒研修の参加資格は、次のすべてに該当する者とした。

- ① 公立・私立の中等教育機関で2年以上日本語を学習し、最終学年に在籍している者。
- ② 研修開始日現在、13歳以上18歳以下の者（1996年7月－2001年7月生まれ）。
- ③ 日本語能力試験N5以上の合格者、或いは応募書類にある「日本語能力証明書」ですべての項目に達していると教師が認定した者。
- ④ 研修開始日現在で過去5年以内に、7日間以上日本に滞在したことがない者。
- ⑤ 当研修への参加許可を保護者から得ている者。

募集及び選考方法は、FJSPが把握しているブラジル国内の公立・私立の中等教育機関77校に募集案内を送り、1名を推薦してもらおう。ペルー及びパラグアイは、公的な中等教育機関がそれぞれ複数あるので、中核機関（ペルー日系人協会日本語普及部、パラグアイ日本人会連合会）に案内を送り、各国1名を推薦してもらおう。中等教育機関が1校しかないボリビア及びアルゼンチンには対象校に直接案内を送り、同じく1名を推薦してもらおう。

3.2 参加者情報

2014年のブラジル国内からの応募は18名、海外からの応募はパラグアイを除く3か国から1名ずつ、合計21名の応募者があり全員の参加を許可した。参加者21名の性別は、男子11名・女子10名、年齢は12-18歳（平均15.6歳）であった。12歳の参加者は、研修の翌月に13歳となるということで許可した。国籍は、ブラジル18名、アルゼンチン1名、ペルー1名、ボリビア1名であった。日本語能力試験合格者は、N5が3名、N4が2名、N3が1名いた。

3.3 研修概要

応募書類の作文の内容や審査書類から、参加者の日本語能力をCEFR（ヨーロッパ共通参照枠組み）/JF日本語教育スタンダードのA1からA2前半レベルと想定し、活動を7つ策定した。研修スケジュールについては、資料を参照いただきたい。

<2014生徒研修のテーマと 活動の通し番号 (タイトル)>

- ① 日本社会の長所と見なされていること、具体的には、時間の使い方や健康的な食生活をテーマに、自分の生活をふり返る。 活動3 (生活のリズム)

- ② 日系移民をテーマに、自分のルーツを自覚し他者のルーツを尊重することを学ぶ。
活動4 (日本移民)
- ③ 東日本大震災をテーマに、日本の災害から教訓を学び、他者の痛みを自らの痛みとする。
活動6 (命の大切さ)
- ④ 日本語を実際に使用することを通して運用能力を伸ばす。活動1 (友だちになりましよう)、活動2 (ここはどんなところ)、活動5 (サンパウロ散歩)、活動7 (日本祭り・計画)

活動3、4、6は、人間教育の方針とテーマにもとづいて策定した。活動1、2、5、7は、人間教育を目指す試みの活動ではなく、日本語の実際使用の場の提供として設定した。研修の1日目は、日本語の使用に慣れること、互いを知りあうこと、施設内の場所を覚え使用上のルールを理解することを目的に、活動1と活動2を行った。活動3の「生活のリズム」は、時間の使い方や食生活の点から、自分の生活をふり返った。2日目は、活動4で日本移民の話題から自分と他者のルーツについて話した後、5つのグループに分かれ随行の教職員とともにサンパウロ市内に出かけた。出かけた先は、日系移民が形成した東洋人街で、日系移民資料館を始め、日本料理店、日本の食品、書籍、雑貨を扱う店などが集中し、現在も日系人が多数住むリベルダージ地区である。そこをグループで散策し、他のグループに勧めたい場所とその理由を地図に書き入れるという課題を行った。

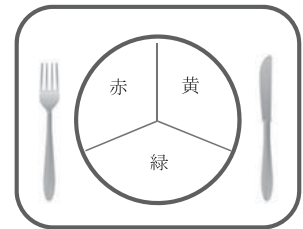
東洋人街散策のあと、参加者は日本雑貨の価格均一ショップに行き、プレゼントを1つ購入した。その後、FJSPに行き、副所長に日本語であいさつをした。3日目は、東洋人街のお勧めの場所について情報交換した後、日本語でメッセージを書いて、プレゼント交換した。活動6では、東日本大震災の話題に続いて防災グッズについて学び、自国の災害の場合の防災グッズをグループで考えた。その中に入れたい大切なものを3つ選びカードに書き、それを捨てていくという活動を通して、大切なものを失った被災者の痛みについて話し合った。活動7は、最終日に予定されている日本祭り見学の準備をした。日本祭りは、日本の各都道府県の郷土料理が提供されるほか、コスプレコンテスト、マンガ・書道・折り紙・切り紙・将棋の体験教室など多数の日本文化が楽しめるイベントである。

参加者は、1つの活動が終わると、自分のパフォーマンスを3段階で自己評価し、気づきを記入した。最終日の朝には、研修全体のふり返りを行い、後日日本語か母語で作文を書いてFJSPに送る課題が課された。研修中の使用言語については、配布資料には部分的にポルトガル語訳をつけ、口頭での説明は易しい日本語と必要に応じてポルトガル語を使用した。スペイン語話者3名には、スペイン語母語のブラジル人日本語教師が、スペイン語で適宜通訳した。夜の交流の時間は、日本のおもちゃ、浴衣、国際交流基金制作のe-learningなどを体験した。また、研修の一環として朝昼晩の食事の皿洗いをグループごとに担当した。

3.4 活動3「生活のリズム」の詳細

人間教育として設計した活動3、4、6のうち、特に活動3「生活のリズム」をとりあげ、詳細に述べる。学習時間は2時間である。

- ① 自分のふだんの生活を、「起きる時間、寝る時間、朝食をとった、バランスのよい食事をした、便秘をしなかった、暴飲暴食をしなかった」の点からふり返り、5段階で評価する。
- ② 時間の効果的な使い方と食生活の点から自分の生活をふり返るという目標を示す。
- ③ **時間の使い方** ペアで質問する。(例 何時に寝ますか、何時に朝ごはんを食べますか、など7問)
- ④ その結果をグラフに書き込み、ペアで比べ、自分の1日の時間の使い方をふり返る。
- ⑤ 時間をよりよく使うために、どうすればいいか話し合う。
- ⑥ 教師が一般的な知識(早寝・早起きは成長につながる)を提供する。
- ⑦ 起きる時間、寝る時間を質問して、同じ時間の人を探す。同じ時間の人で集まって、研修中にほかの人に迷惑をかけない朝・夜の時間の過ごし方を話し合う。
- ⑧ **食生活** 教材にあるイラストの食品を、黄色の食べ物(体を作る)、赤色の食べ物(エネルギーのもとになる)、緑色の食べ物(体の調子を整える)に分類する。
- ⑨ 日本の小学校の学校給食の写真を見て、何色の食べ物が多いか話す。
- ⑩ 自分のふだんの昼ごはんをイラストか文字で図1にかく。
- ⑪ ペアでイラストを見て何色がが多いか話す。
- ⑫ 朝ごはんを食べると何がいいかチェックリストに答える。
- ⑬ 時間の使い方や食生活について、自分がこれから気をつけたいことを発表する。



<図1 私の昼ごはん>

4. 評価と課題

4.1 アンケート結果の集計と評価

研修の最後にアンケートを実施し、21名全員から回収した。結果は次のようになった。

- ① 研修の意義：とても有意義 20名、有意義 1名
- ② 研修の必要性：是非必要 13名、必要 7名、無記入 1名
- ③ 一番よかった活動：サンパウロ散歩(活動4) 13名、命の大切さ(活動6) 4名
- ④ 研修で学んだこと：(複数回答)
 - ・日本語を実際に使ってみたこと(活動1-7) 21名
 - ・友だちとの関係を作り、深める方法についてふり返ること(活動1、5) 21名
 - ・社会(日本・ブラジル・世界)と自分を関連づけて考えること(活動4-7) 20名
 - ・ほかの人と協力して活動すること(活動1-7) 18名

・自分の生活をふり返ること (活動3、4) 9名

「一番よかった活動」で最も回答が多かったのは、人間教育の試みの活動(3、4、6)ではなく、活動5の「サンパウロ散歩」だった。外に出て実際に体を動かしながら共同作業をすることで、A1からA2前半レベルの参加者でも達成感が得られたからだと思われる。しかし、「研修で学んだこと」からは、生徒研修の方針である「社会との関連を考えたり、自分の生活をふり返ったりすること」に対して肯定的な評価が見られる。アンケートの自由記述の中には、日本語に加えて英語も駆使してスペイン語話者とのコミュニケーションを成立させられたと達成感を述べる者、スペイン語話者を助けて各活動を遂行できた自信を記す者など、異質な集団で交流する貴重な体験への言及もあった。

4.2 今後の課題

残念ながら、人間教育の試みの活動(3、4、6)を「一番よかった活動」にあげた者はいなかった。今回、初めての試みで講師側に指導経験が不足しており、学習者に活動の意図を十分伝えられなかったことが大きい。人間教育の試みは、理念の学習、理念や目的に沿った活動設計、評価方法の開発、教師の実践能力の向上が必要になるとと思われる。今後も実践を積み重ねて、活動を精緻化させ、指導力を向上させていきたい。

内容重視の活動では、母語使用が増え日本語使用が少ないという問題がよく指摘される。生徒研修でも、参加者のポルトガル語使用が目立ったが、メモ作成などの事前作業があれば日本語使用が増えることが観察されたので、その点から活動を改善したい。参加者のA1からA2前半レベルという日本語力を考えると、話し合いではポルトガル語を使わざるを得ないが、その場合スペイン語話者がグループ活動に入っていけなくなる。次回は、そのようなスペイン語話者の気持ちに気づく活動もとり入れたい。参加者は、人間関係を作る社会スキルが発達途上にあるので、チーム作りの活動が重要であることを再認識した。

「はじめに」で述べたように、どのような人間を育てるかという教育的観点からブラジルの言語教育に問題提起していく必要がある。今回の生徒研修の実践を初中等教師に対する研修でとりあげ、その意義について共有していきたい。

〔参考文献〕

国立教育政策研究所教育課程研究センター (2013)『社会の変化に対応する資質や能力を育成する教育課程編成の基本原則〔改訂版〕』、国立教育政策研究所 (教育課程の編成に関する基礎的研究報告書5)
モラレス松原礼子 (2013)「4章ブラジル日系人と在日ブラジル人—言語・メンタリティー」、宮崎幸江編集『日本に住む多文化の子どもと教育ことばと文化のはざままで生きる』、89-116、ぎょうせい

資料 <2014生徒研修 研修スケジュール>

| 水 | | 木 | | 金 | | 土 | |
|-----------------------|-----------------------|-----------------------|---|--|--|-------------------|---------------------|
| 07月02日 | 07月03日 | 07月04日 | 07月05日 | | | | |
| 各地域よりサンパウロの会場に集合 | 6:00-7:00 起きる時間 | 6:00-7:00 起きる時間 | 6:00-7:00 起きる時間 | 6:00-7:00 起きる時間 | 6:00-7:00 起きる時間 | 7:30-8:15 研修のふり返り | 7:30-8:15 研修のふり返り |
| 8:30 - 9:30 | 8:15-8:45 | 8:15-8:45 | 8:15-8:45 | 8:15-8:45 | 8:15-8:45 | 8:15-8:45 | 8:15-8:45 |
| 朝ごはん | 朝ごはん | 朝ごはん | 朝ごはん | 朝ごはん | 朝ごはん | 朝ごはん | 朝ごはん |
| 9:30 - 10:45 | 9:00 - 10:00 | 9:00 - 11:00 | 9:00 - 11:00 | 9:00 - 11:00 | 9:00 - 11:00 | 09:15 | 09:15 |
| あいさつ/オリエンテーション | 活動4 日本移民 | 活動5 サンパウロ散歩 1 | 活動5 サンパウロ散歩 2 (東洋人街リベルダージ、プレゼント購入、FISP訪問。 屋ごはんは、リベルダージにて日本食をどる。) | 活動5 サンパウロ散歩 3 (活動の発表、プレゼント 用メッセージ作成、プレゼント交換) | 活動5 サンパウロ散歩 3 (活動の発表、プレゼント 用メッセージ作成、プレゼント交換) | | |
| 10:30 - 10:45 | 10:30 - 10:45 | 10:30 - 10:45 | 10:30 - 10:45 | 10:30 - 10:45 | 10:30 - 10:45 | 10:00 - 15:30 | 10:00 - 15:30 |
| 休憩 | 休憩 | 休憩 | 休憩 | 休憩 | 休憩 | | |
| 11:00 - 12:00 | 10:05 - 11:05 | 11:00 - 12:00 | 11:00 - 12:00 | 11:00 - 12:00 | 11:00 - 12:00 | | |
| 活動1 友だちになりましょう | 活動5 サンパウロ散歩 1 | 活動6 命の大切さ 1 | 活動5 サンパウロ散歩 2 (東洋人街リベルダージ、プレゼント購入、FISP訪問。 屋ごはんは、リベルダージにて日本食をどる。) | 活動6 命の大切さ 1 | 活動6 命の大切さ 1 | | |
| 12:00 - 13:00 | 11:15 - 17:30 | 12:00 - 13:00 | 11:15 - 17:30 | 12:00 - 13:00 | 12:00 - 13:00 | | |
| 屋ごはん | | 屋ごはん | | 屋ごはん | 屋ごはん | | |
| 13:30 - 15:00 | | 13:30 - 15:00 | | 13:30 - 15:00 | 13:30 - 15:00 | | |
| 活動2 ごぼんをどる | | 活動2 ごぼんをどる | | 活動6 命の大切さ 2 | 活動6 命の大切さ 2 | | |
| 15:00 - 15:15 | | 15:00 - 15:15 | | 15:00 - 15:15 | 15:00 - 15:15 | | |
| 休憩 | | 休憩 | | 休憩 | 休憩 | | |
| 15:15 - 17:15 | | 15:15 - 17:15 | | 15:15 - 17:15 | 15:15 - 17:15 | | |
| 活動3 生活のリズム | | 活動3 生活のリズム | | 活動7 日本祭り(計画) | 活動7 日本祭り(計画) | | |
| 17:30 - 18:00 | | 17:30 - 18:00 | | | | | |
| ダンスの時間 | | ダンスの時間 | | | | | |
| 18:00 - 19:00 | 18:00 - 19:00 | 18:00 - 19:00 | 18:00 - 19:00 | 18:00 - 19:00 | 18:00 - 19:00 | | |
| 晩ごはん | 晩ごはん | 晩ごはん | 晩ごはん | 晩ごはん | 晩ごはん | | |
| 19:00 - 21:00 交流の時間 | 19:00 - 21:00 交流の時間 | 19:00 - 21:00 交流の時間 | 19:00 - 21:00 交流の時間 | 19:00 - 21:00 交流の時間 | 19:00 - 21:00 交流の時間 | | |
| 20:00 - 22:00 シャワーの時間 | 20:00 - 22:00 シャワーの時間 | 20:00 - 22:00 シャワーの時間 | 20:00 - 22:00 シャワーの時間 | 20:00 - 22:00 シャワーの時間 | 20:00 - 22:00 シャワーの時間 | | |
| 22:30 寝る時間 | 22:30 寝る時間 | 22:30 寝る時間 | 22:30 寝る時間 | 22:30 寝る時間 | 22:30 寝る時間 | | |
| | | | | | | | 15:30 出口集合、各自帰路に着く。 |